

都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線 「牧山－枝光間」の開通について

北九州市 都市整備局 街路課

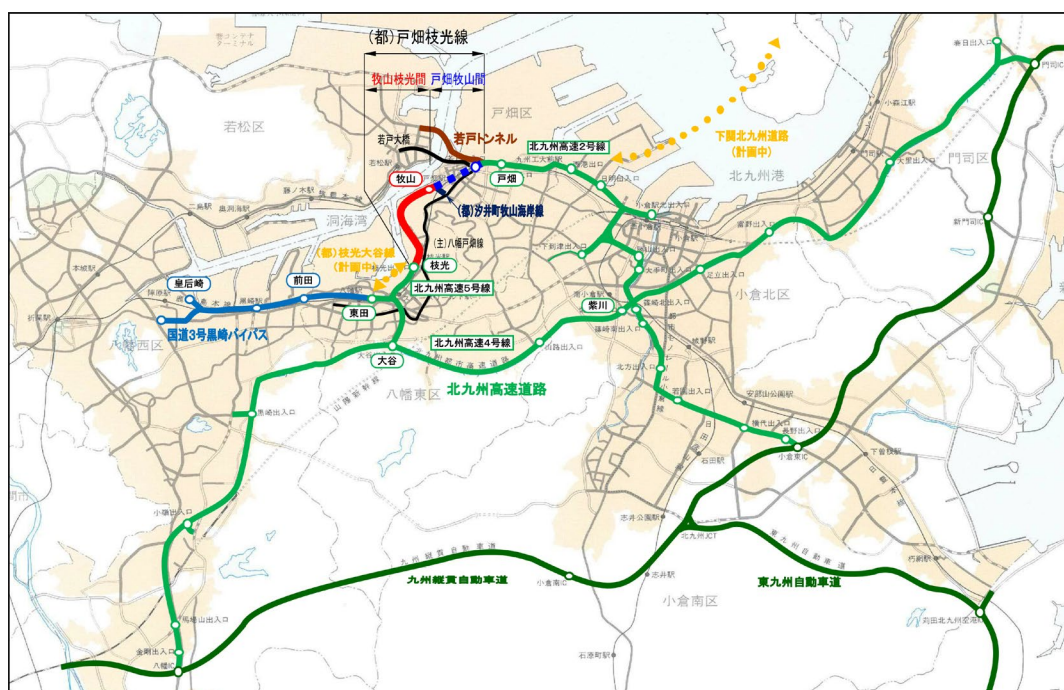
1. はじめに

北九州市は、福岡県北部に位置する都市で、九州地方の玄関口としての役割を果たしています。1963年に門司市、小倉市、戸畑市、八幡市、若松市が合併して誕生し、産業と文化の融合が特徴であり、多くの歴史的な遺産や自然景観に恵まれています。さらに、工業都市としての発展を遂げつつ、持続可能な都市づくりにも注力しています。

また、令和6年3月に「北九州市・新ビジョン」を策定し、つながりと情熱と技術で、「一步先の価値観」を体現するグローバル挑戦都市・北九州市を目指して、まちも人も潤っていく「まちの成長」と「市民の幸福」の好循環を創り出すために、「3つの重点戦略（「稼げるまち」の実現、「彩りあるまち」の実現、「安らぐまち」の実現）」を掲げています。

本市の道路整備は、「北九州市・新ビジョン」をもとに令和7年1月に「北九州市道路整備中長期計画」を策定し、企業活動や物流振興を支え、稼げるまちを実現するため、都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線をはじめ、「国道3号黒崎バイパス」の整備や「下関北九州道路」の都市計画決定手続きを進めるなど広域道路ネットワークの形成を進めています。

本稿では、本市の街路事業と福岡北九州高速道路公社（以下、「公社」という。）の有料道路事業との合併施行方式で整備を進めている「都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線の整備」及び「同線牧山枝光間の開通」について紹介します。



図－1：北九州市自動車専用道路ネットワーク図

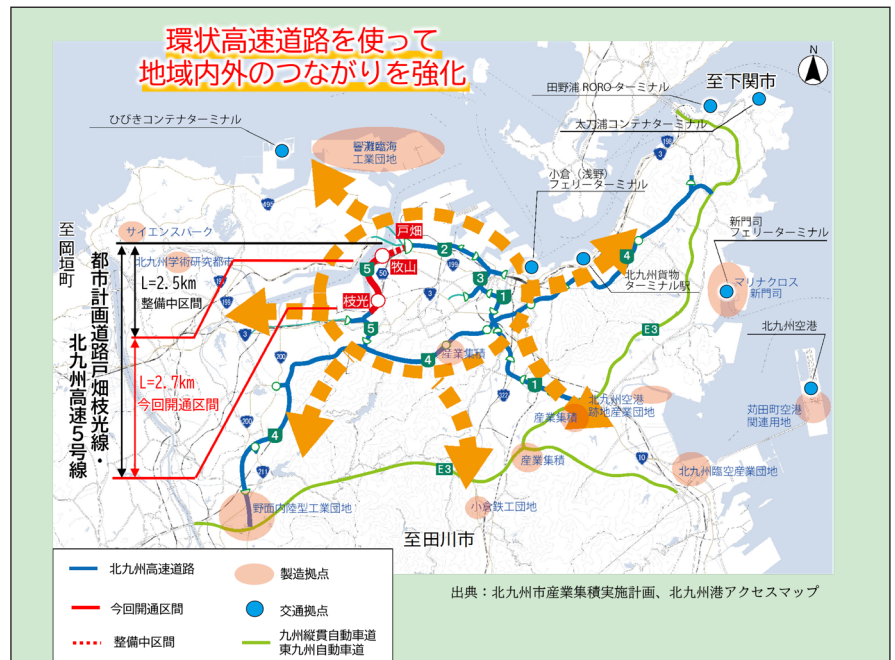
2. 事業概要

(1) 事業の目的

都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線の整備には、大きく2つの目的があります。

1つ目は、「物流・人流の効率化による地域経済の活性化」です。製造業が盛んな本市では製造拠点等が高速道路や港周辺に点在しており、製造拠点と交通拠点をつなぐ環状高速道路のうち戸畑枝光区間のみが未整備のままでした。本路線の整備により、広域道路ネットワークが形成され、製造拠点や交通拠点間のアクセス性の向上により、円滑な物流や人流の効率化が図られ地域経済の活性化に寄与していきます。

2つ目は、「強靱な道路ネットワークの形成による災害時のリダンダンシーの確保」です。北九州高速4号線は平成30年7月の豪雨により法面崩壊が発生し通行止めとなる等、災害に対する脆弱性の問題を抱えています。さらに、災害発生時には代替ルートとなる一般道路での交通混雑の発生が予想されます。北九州高速道路が環状化することで災害発生時のリダンダンシーが確保され、頻発化する災害に対する道路ネットワークの機能強化が図られます。



図－2：北九州市内の製造・交通拠点



図－3：北九州高速4号線の通行止め時に想定される代替ルート

(2) 事業の経緯

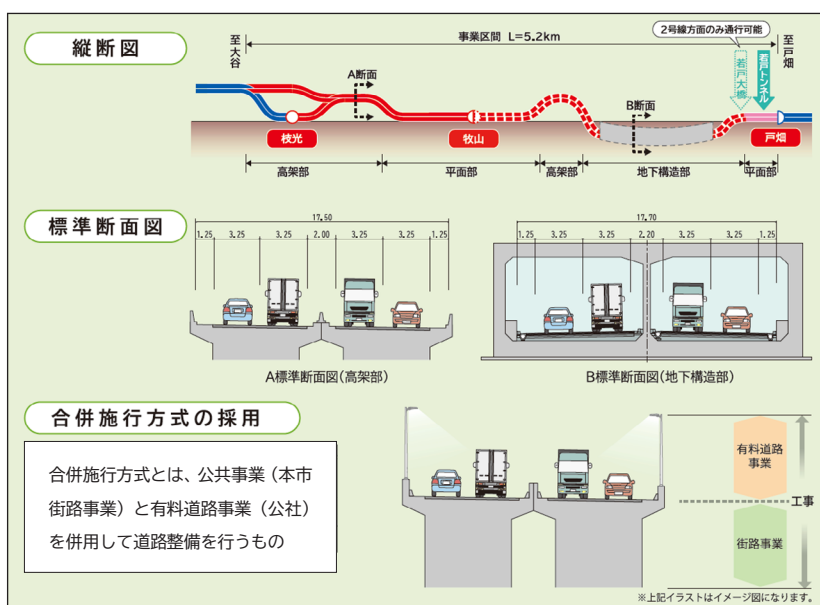
都市計画道路戸畑枝光線は、平成5年に都市計画決定し、国から平成9年に地域高規格道路の整備区間として指定を受け、北九州高速道路の一部として公社の「北九州高速道路整備計画」に組み込んでいました。しかしながら、公社は、緊急性の高い北九州高速4号線大規模修繕の財源確保などの課題が持ち上がり、戸畑枝光区間は「北九州高速道路第10回整備計画変更（平成16年3月）」において整備計画から削除されました。一方、本市は、戸畑枝光線が必要不可欠なインフラであるため、有料道路事業ではなく一般道路（無料の自動車専用道路）事業として整備する方針を決定し、平成23年から、本市の街路事業として整備を進めてきました。その後、「国道3号黒崎バイパス」の皇后崎ランプ～前田ランプ、前田ランプから北九州高速5号線東田出入口への接続部の供用や「下関北九州道路」の都市計画決定を進めるための調査検討が実施されるなどの周辺幹線道路の進展や、東田地区の大規模遊休地への大型商業施設「ジ アウトレット北九州」の開業などの周辺開発の進行といった社会経済情勢の変化により、北九州高速道路の利用増加が見込まれるようになりました。

このような状況を踏まえ、本市は、維持管理水準の向上による安全性・走行性の確保および整備費用と道路維持管理費を軽減するため、「戸畑枝光線の有料化に向けた手続きをすすめる」という方針を固め、「北九州高速道路第12回整備計画変更（令和5年1月）」を経て、令和5年、本市の街路事業と公社による有料道路事業との合併施行に移行しました。

(3) 事業の概要

都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線は、事業効果を早期に発現させるため、枝光出入口から牧山出入口までの「牧山枝光間」と牧山出入口から戸畑出入口までの「戸畑牧山間」の2つの区間に分けて段階的に整備を進めています。

また、本事業は合併施行方式を採用しており、道路の基盤構造（盛土・橋梁等）を街路事業、舗装・料金所・照明等の付属施設を有料道路事業として整備することにより、コスト効率と事業推進力の両立を図っています。



図－4：縦断図・標準横断面図・合併施行方式

各区間には以下のような特徴があります。

- ・ 牧山枝光間（L=2.7km）：橋梁と低盛土による構造
- ・ 戸畑牧山間（L=2.5km）：市街地を縦断するトンネルを含む複合的構造

全区間において、周辺環境への影響を最小限に抑えつつ、安全性と機能性の高い道路整備を進めています。

3. 整備状況

(1)「牧山枝光間」の開通

都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線の全長5.2kmのうち、牧山枝光間の2.7kmは令和7年3月1日に開通しました。開通1か月後の交通量は、上下線合わせて日平均約2,100台となっています。本路線は、地域高規格道路であり、トラック等の物流の更なる円滑化等を図るため、国土交通大臣から物流上重要な路線として令和4年4月「重要物流道路」の指定を受けており、今後、残る戸畑牧山間の整備が完了し、全線開通することで、製造・交通拠点の機能強化が見込まれています。



図－5：全体平面図

(2)「戸畑牧山間」の整備状況

戸畑牧山間の2.5kmは、平成26年度に事業着手し、令和15年度の完成を目指しています。これまで主に用地買収を中心に進めており、令和7年度から本格的に工事に着手する予定としています。

4. 開通記念イベント及び開通記念式典の開催

(1) 開通記念イベント

都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線「牧山～枝光間」の開通に先立ち、道路事業への理解を深めてもらうことや都市高速道路の利用促進を図るため、供用前の区間を市民に開放し、自由に歩いてもらうウォーキングイベントを公社と共催で開催しました。ウォーキング区間には、都市高速道路の維持管理及び安全確認に使用している作業車・巡回車の展示による事業PRなどがあり、地域住民の方々をはじめとした約5,500人が参加し、新しい道路の散策や北九州高速道路上から見える洞海湾、若戸大橋などの景色を楽しみながら利便性を知っていただき、延伸・開通への期待感を高めていただきました。



写真－1：ウォーキングの状況



写真－2：作業車・巡回車の展示状況

(2) 開通記念式典

開通日当日の3月1日、本市と公社の共催で開通記念式典を執り行いました。式典は、福岡県選出の国會議員をはじめ、国土交通省や福岡県の関係者、そして、事業に協力頂いた地域住民の方々を含めた約80名が参列し、「牧山枝光間」の開通を祝っていただきました。また、通り初め式には、今回の開通区間である本線上で、テープカットやくす玉開披を執り行い、ファンファーレの合図で車両21台による通り初めを行いました。同日15時には一般車の供用を開始しました。



写真－3：テープカット・くす玉開披

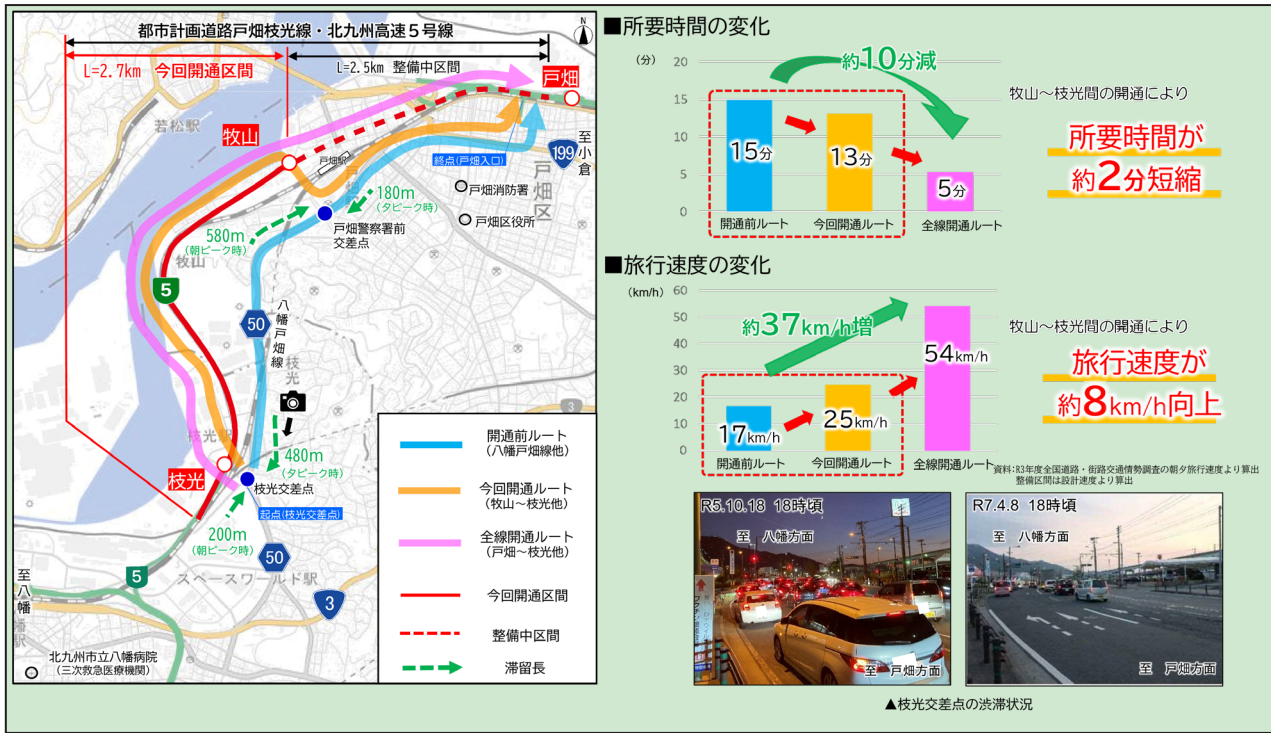


写真－4：通り初め

5. 開通の効果

都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線に並行する県道八幡戸畑線は朝・夕ピークの渋滞が多く発生しています。戸畑枝光線の整備により、物流活動や救急搬送時における速達性・定時性の向上や周辺幹線道路の交通混雑が緩和されることで交通安全性の向上が期待されます。

また、全線開通後は更なる時間短縮や旅行速度の向上が見込まれています。



図ー6：事業の整備効果

6. おわりに

都市計画事業の認可を受けた平成23年度から14年の歳月をかけて、「牧山枝光間」が開通しました。残る「戸畑牧山間」の整備が完了し、都市計画道路戸畑枝光線・北九州高速5号線が全線開通すれば、長年の悲願である北九州高速道路の環状化が実現します。

環状化することで、製造業や物流の拠点間のアクセスが飛躍的に向上し、地域経済の発展に大きく寄与するとともに、災害時の代替ルートが確保されることで、災害に強い街としての地位も一層高まります。さらに、「国道3号黒崎バイパス」や「下関北九州道路」と接続することで、その効果は市外にまで波及され、本州や九州の玄関口である多様な産業・物流の拠点の連絡性を高め、より強固な都市基盤形成に繋がります。このため、一日も早い戸畑牧山間の開通に向けて、引き続き全力で取り組んで参ります。